

総企第 607 号
平成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 様

洞爺湖町長 長 崎 良 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

このことについて、別紙のとおり提出しますので、よろしくお願いします。

（洞爺湖町企画防災課）

○ 今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案

(北海道洞爺湖町)

◇ 交通量の需要推計による道路網の整備は、整備に対する理解を得やすいものであるが、交通量の多い都会と少ない地方の格差を助長するものである。

道路整備の予算の多くは高速道路を中心とした高規格道路の整備であり、利用者にとって見れば利用開始区間から目的地までの利用となってしまう、沿線の交通量の緩和という問題は解決するものではあるが、地域の衰退にもつながっていく要因のひとつでもある。

既存の高速道路についての利用者負担は、基本的に需要と供給のバランスを考えて設定すべきであると考え、そのほか、速度規制、車線数も考慮すべき項目であると考え。

今後の高規格道路の整備は、料金を徴収する高速道路として整備するのではなく、既存の道路を高規格道路として整備を進めるべきで、また、地方道路の補助事業採択については、地方の裁量により幅員を決定できるよう、制度改正など検討を行う必要があると考える。

○ 今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②—1 地域の現状と抱える課題

(北海道洞爺湖町)

○ 現 状	○ 課 題
洞爺湖町は平成18年3月28日に虻田町と洞爺村の合併により誕生した町である。 虻田地区は、観光が主要産業で、そのほかホタテ養殖が主体となっている漁業となっており、洞爺地区は、基幹産業の農業と体験滞在型観光を目指している。 2000年の噴火は、町の観光産業に大きなダメージを与え、まちづくり交付金事業により魅力ある街づくりを進めているところではあるが、未だに当時の入り込み客数に達していない状況にある。 他の産業においても停滞した状況にあり、町税が減収傾向にあり、町の財政状況が悪化している。 2町村の合併により町はひとつになったが、旧町村間をつなぐ道路は、国道230号と道々洞爺虻田線しかなく、冬季間、吹雪のために通行止めとなる場合があり、そのようなときに噴火が発生した場合の避難路の確保がまだ未整備となっている。	1 最近海外からの投資が増えているニセコとの一体となった観光や環境に配慮した道路の整備。 2 大消費地札幌への地場産品輸送のための国道230号の整備。 3 吹雪時に通行止めとなる場合もある国道230号のバイパスとの役目を持っている道々洞爺虻田線の改築整備。 4 高齢者、子供が安心して暮らせるまちづくりのための町道整備。

○ 今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

②－２ 地域の目指すべき将来像

北海道 洞爺湖町

◇ 洞爺湖町は、自然や、有珠火山と洞爺湖という観光資源を活かした観光業や全道一の生産量を誇るセルリー、赤紫蘇、品質の良い長いも高級菜豆の農業、ホタテ養殖の漁業が主力産業であり、北海道洞爺湖サミットの開催地としての知名度などを今後もこれら産業の隆興が町の発展に繋がっていくものと考えている。

洞爺湖町が、魅力的な観光地になっていくことは当然必要なことではあるが、沖縄などと違って、観光地間の距離が遠い北海道においては周遊観光に組み入れてもらうことが重要である。

そのためには観光地間のアクセスの良さが重要であり、特に最大の観光地である札幌とのアクセス、外国人客が訪れているニセコとのアクセスが近年、重要さを増している状況にある。

第一次産業での生産物の流通においても同様なことが言えている。

災害に強いまちづくりの観点からは、今後も３０年に一度の噴火が予想されている有珠山からの避難路の整備は重要で、道々洞爺虻田線の道路整備が急がれる。

また、通学路における歩道設置率が５０％以下の状況にあり、高齢者、子供などの弱者に安全な道づくりが急務となっている。

以上のことから国、道、町挙げての一体となった道路整備、ネットワーク化が、町の発展の重要な要素となっている。

○ 今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北 海 道 洞 爺 湖 町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
	※ 地域としての特に代表例の提案はありません。		